隔月刊 new life creating bimonthly magazine
第133号 平成16年4月5日発行（隔月刊） 年6回偶数月5日発行 1998年3月20日第3種郵便物認可 ISSN0910-1950

デザインの現場

DESIGNERS' WORKSHOP

vol.21 no.133
2004
4
Apr.

タイポグラフィの学び方

葛西薫／副田高行／木村裕治／祖父江慎

文字を学ぶための学校・参考図書
知っておきたい書体の豆知識

特別記事 第5回シヤチハタ・ニュープロダクト・デザイン・コンペティション受賞作品発表
オランダデザインの新潮流「moooi」とマルセル・ワンダース
ロンドンのデザインスタジオ「Graphic Thought Facility」

次号2004年5月27日発売
http://www.bijutsu.co.jp/bss

“ユビキタス・ネットワークの未来”と言われてもよく分からない人たちへ。
「未来はけっこう便利で明るいですよ、ほら」というメッセージを視覚化してくれるのが
酒井俊彦さんがコムコム・プロジェクトと共同でつくりあげた
情報ネットワーク家電のプロトタイプ「ファースト・シリーズ」。便利で美しい未来が待っている。

取材・文／紫牟田伸子
TEXT by NOBUKO SHIMUTA
撮影（P.98〜100）／姫野清司
PHOTOGRAPHS（P.98〜100）by SEIJI HIMENO

未来をむずかしくしない，白い家電





「プロジェクター」。コードレスにするため、充電式で、画像を受信できる仕様。
レンズが180度回転するので、据え置きのままでもさまざまな方向に映写できる。
「コードレスで小さくて」という依頼に、それでは、天井にも映るように、と酒井さんが応えたデザイン



「クレードル」。これ1つで複数の機器が充電できる

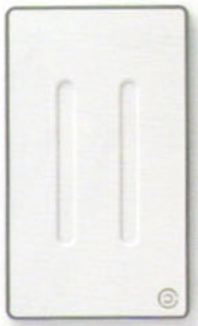


すべて「スーパーリモコム」。携帯用のリモコンで、左下が開けたところ。画面(右上)、キーボード、入力ペンと分かれるようになっている

「ビルトインリモコム」。壁付けのリモコンは、ふつうのインターホンの形状を踏襲しつつ、携帯用の「スーパーリモコム」と連動して、外出先からでも訪問客と対応でき、また情報検索やセキュリティ機能も持つ。
P.98〜100の写真は、すべてプロトタイプ



❶スーパーリモコム　ばらばらな家庭内の機器類を統一する頭脳。それぞれの家電を感知して液晶表示が変わるため、少数のスイッチボタンでコントロールできる。テレビに向けるとテレビ用リモコンに、エアコンに向けるとエアコン用リモコンにと、スイッチの機能と表示が切り替わる感知機能技術はすでにあるので、実用化を目指している。❷シンプルリモコム　❸小型ディスプレイ　❹クレードル　❺ディスプレイ(15インチ)　❻プロジェクター　❼カメラ　❽マイク　❾スピーカー　❿CD、DVDプレーヤー



2



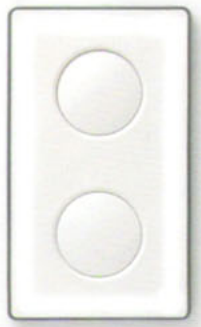
1



4



3



6



5



7

現在の暮らしの中にあるコンセントまわりに、新しい機能をまとめたもの。
1　無線LAN基地局ユニット
2　無線帯域増設ユニット
3、4　USBの挿入口がついた「コムステーション」
5、6　暗いと周囲が発光する「スイッチリモコム」
7　コンセント機能付きの「コムステーション」
機能の盛り込み方により、USBやPCカード挿入口など、さまざまなバリエーションが可能。家庭内のケーブル接続はどうしても複雑になりがち。それをコンセントやスイッチプレートの規格にはめ込んでしまおうという提案。延長コードがコンセント側から伸びてくるのはナイス！

未来をむずかしくしない

コムコム・プロジェクトはユビキタス・ネットワーク・サービスを2006年に開始しようというプロジェクト。ユビキタス、つまり情報ネットワークは、今後ますます家庭に入り込むことが予想されている。しかし、新しい技術はいつも目に見えにくい。現状では、既存の家電、たとえば冷蔵庫に液晶パネルを付けたものなどが、次世代の情報ネットワーク家電として発表されている。だが、果たして家電に液晶を付けることが次世代なのだろうか？

「未来をむずかしくしない」というコムコム・プロジェクトの思想に共鳴したのがプロダクトデザイナーの酒井俊彦さん。「〝ややこしい〟を排除して便利にする。これが今までやってきたこと。しかし便利になればなるほど、家の中が複雑になっていった。たとえばリモコンがあれこれ増える。コンセントまわりがごちゃつく。それでは家が汚くなる一方ですよね。だからこれからは、便利できれいな家で暮らすことを考えたい」。

新しいリモコン「リモコム」

この考え方が端的にプロダクトに現われているもの、それが「ファースト・シリーズ」だ。このシリーズは、コムコム・プロジェクトのサービスが実際に家庭でどのように使われるのかという提案、つまりサービスを説明するためのプロトタイプでもあるのだが、面白いのは、これらのプロトタイプがいわゆる家電を中心としたものではなく、家庭と外をつなぐ情報ネットワークを体現するものであることだ。

このシリーズの中心は「リモコム」。家電ひとつひとつを操作する従来のリモコンとは一線を画すネットワーク基地として位置付けられている新しい概念だ。「リモコム」にはバリエーションがあり、PDAのような液晶画面を持ち、家中のすべての家電を統括するユーザーインターフェースとなる「リモコム」を始め、インターフォン型の「ビルトインリモコム」、従来のスイッチプレートと同様の「スイッチリモコム」、さらに従来の家庭内のコンセントの形状を引き継ぎ、そこに無線LANやハブ機能をひとつにまとめた「コムステーション」など、さまざまな考え方が提示されている。これらの「リモコム」は、近隣のタクシー会社をすぐに検索できたり、ショップに花の手配を頼めたりという、コムコム・プロジェクトが提供しようとしているサービスと連動するもので、生活情報のサポートと同時に、外出時にも携帯しやすい形のものがあるなど、より簡単に生活の中で使えるように考えられている。

「オフィスや自宅の現在のコンセントまわりを想像してみてください。新しい技術は見た目も使い勝手も煩雑になりがちなんです。そこで既存のコンセントまわりに、機能を集約させたり、スイッチプレートにまとめ直したりすれば、より使いやすくなると考えました。いわば、これは機器のコンシェルジュ化ですね」。

さらに周辺機器としてプロジェクターやテレビ、充電器など、酒井さんは40以上のアイテムを一気にデザインした。

〝たたずまい〟のある機器

「ファースト・シリーズ」のデザインコンセプトは「たたずまい」。「それぞれの機器が置かれる環境に応じて美しくあることが大切なんです」と酒井さん。端正で現代のインテリアに合う機器のコンセプトをつくるために、酒井さんはさまざまなインテリアを参照し、特に壁紙との協調性を重視した。その結果、導き出されたのが、爽やかな「白」だった。「白い壁の部屋に住んでいる人は多い。特に新しいマンションは白が基調なんですが、インテリアに合う白い家電は少ないですね」。いわゆる炊飯器や冷蔵庫などを「白物家電」というが、微妙に色や柄が入っている。その中で、実際に白い家電として思い浮かぶのは無印良品。しかし無印の白は、インテリアを〝邪魔しない〟白なのではないか。酒井さんが目指したのは、むしろ端正に存在感を主張できる白なのだ。

それぞれの機器のデザインはすべて機器の性格や置かれる場所によって、デザインコントロールされている。たとえばPC系の製品は007のアタッシュケースから出てくるスパイ小物のような遊び感のあるものに。高性能で大切に扱わなければいけない製品は、傷つけたくないと思わせるような上質な素材や、上に物を載せられないように不安定な形に。ラフに扱われることが想定される製品はプラスチック素材を使用するなど、細部に至るまでものの機能性が「たたずまい」によってユーザーに直接伝わるようなデザインコンセプトがたてられているのも大きな特徴である。

「ファースト・シリーズ」に続く第二弾は、統一感から一転して個性の饗宴になるそうだ。グエナエル・ニコラ、デザイン・スタジオS、HOデザインらが参加して、「リモコム」の機能をそれぞれ特化した世界観のバリエーションが提示される予定だ。

プロトタイプというのは、すぐに実現できるものではなく、「こんなものができたらいいという理想を実体化したものです。ここからが本当の出発点。多少大きくなろうが、ダメなところがあろうが、これに向けてつくることができる。そういうものなんです」と酒井さん。技術を翻訳しながら、未来の夢を私たちに見せてくれるプロダクトデザインの醍醐味。これらのかたちが私たちの家庭に届く日を、心待ちにしている。



さかいとしひこ
1964年高知生。87年東京造形大学卒。コーゾーデザインスタジオなどを経て、92年サカイ デザインアソシエイツ設立。大東電機工業のマッサージチェア、韓国・LG電子のフラットテレビ、アッサンブラージュオリジナル家具シリーズのデザイン、ビッツェリア「FUMO」のインテリアなど、工業デザインから家具、マルチメディアタイトル、インテリア、CGなど幅広く手がける。
連絡先＝サカイ デザイン アソシエイツ
渋谷区千駄ヶ谷5-11-13 俳協ビル1F
〒151-0051　TEL.03-5363-1039
www.sakaidesign.com
撮影／森田ケン